

教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	フジタ マモル	所 属	農学ビジネス学科		
氏 名	藤田 守	身 分	准教授		
学 歴					
年 月	事 項				
1994年8月	Institute of Languages, The University of New South Wales, Sydney, Australia (～1995年4月)				
1996年3月	拓殖大学 政経学部 経済学科卒業 経済学士				
1998年3月	国立台湾師範大学国語教学中心 (～1999年6月)				
1999年9月	東呉大学(台湾) 外国語文学院 修士課程入学				
2002年1月	東呉大学(台湾) 外国語文学院 修士課程修了 文学修士(東呉大学)				
職 歴					
年 月	事 項				
2000年3月	東呉大学(台湾) 公開講座 非常勤講師 (～2004年2月)				
2003年9月	世新大学(台湾) 人文社会学院 日本語文学科 非常勤講師 (～2004年1月)				
2004年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 専任講師 (～2007年3月)				
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 助教(職位名改称) (～2009年3月)				
2009年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 准教授 (～2014年3月)				
2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科(学科改組) 准教授 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目(2023年度)					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
中国語コミュニケーションⅠ	203 教室	前期	月	4	
中国語コミュニケーションⅢ	203 教室	前期	月	3	
日本語コミュニケーションⅠ	203 教室	前期	金	2	
総合日本語Ⅰ	203 教室	前期	火	4	
日本語コミュニケーションⅢ	203 教室	前期	金	4	
総合日本語Ⅲ	203 教室	前期	火	5	
地域プロジェクト	202 教室	前期	木	5	
地域特別演習	202 教室	前期	木	5	
中国語コミュニケーションⅡ	203 教室	後期	月	4	
中国語コミュニケーションⅣ	203 教室	後期	月	3	
日本語コミュニケーションⅡ	203 教室	後期	金	1	
総合日本語Ⅱ	203 教室	後期	火	5	
日本語コミュニケーションⅣ	203 教室	後期	金	4	
総合日本語Ⅳ	303 教室	後期	火	4	
地域プロジェクト	202 教室	後期	木	5	
地域特別演習	202 教室	後期	木	5	

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現行授業の目標と教育効果</p> <p>目標)</p> <p>①第2外国語学習は難しそうというイメージの払拭と語学学習継続後のイメージの醸成</p> <p>②メディア報道による情報と一般市民意識の例を提示し、双方の相違点の明確化</p> <p>③語学学習や文化に関する情報提供を通じての教養レベルのさらなる高揚</p> <p>④学習目的に応じた情報の提供による学習成果の自覚</p> <p>⑤語学学習やその必要性に懐疑的な学習者のアプローチ方法を取り入れた授業運営</p> <p>教育効果)</p> <p>ストレスなく習得するための対処法や関係する情報収集を通じて、新たな発見ができたとする改善の傾向が授業内で課した小レポート等で確認された。以下は目標に対する所見である。</p> <p>①中国語の授業や学習に対して肯定的なコメントが見られた。(例：初めての語学で心配だったが、分かりやすく授業のスピードなどもスムーズでやりがあった。テストでよい点を取れた。中国語を学んでみて楽しかった。)</p> <p>②中国や中国語に対するイメージと従来の観点とは異なる視点を得たとのコメントが見られた。(例：質問に対してちゃんと答えてくれた。)</p> <p>③発音・漢字・食・文化など関心に依じて新しい発見があったとの肯定的評価が見られた。(例：発音なども聞きやすく勉強することができた。勉強法の指導。学習姿勢を示しつつ授業を行っていた。中国語の会話では単語の覚えた方がためになった。発音練習や意味を教えてくれてもらった所。)</p> <p>④言語習得の具体策に関するコメントが見られた。(例：単語にイラストがあつてわかりやすかった(3)。絵をつけてわかりやすく説明してくれた(6)。)</p> <p>2) 自己評価</p> <p>内語反復と口慣らしを重視した授業展開により、人前で発音したり発表したりする際の緊張感から解放されリラックスしながらも適度な集中力を維持し学習に取り組む様子が確認された。これまでの学習とは異なると考えられる観点に基づき、第二外国語学習の意義を考える機会を与えたことで、一連の学習に対する積極性の醸成に結びついたものとする。</p>	
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現状の説明(長所と問題点を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的で自分に負担がかからない学習方法を模索することも重要であることから、その一環としてリハーサルによる内語反復指導を行っている。必要に応じて個別指導を授業終了後に実施している。 ・テストでよい点がとれたというコメントに関連し、自分でできるようになった箇所と不十分な箇所を明確にし、毎回の小レポートに記述するよう促してきたことにより、学習における変化を観察する習慣が身につけてきた可能性があると考える。 ・授業進行については概ね支持されていることを踏まえ、全体の進行に余裕を持たせながらさらなる学習効果を図っていく。 <p>2) 改善への取り組み(実践例を含む)</p> <p>「教員と学生の間、学生同士の間」に有効なコミュニケーションがあつた」は、授業後に質問や確認の時間を設けていることを後期は特に強調して呼びかけたことで、「質問に対してちゃんと答えてくれた」とのコメントが挙げられたものとする。ただし、感染症対策の影響や学習者の問題意識の程度にも関係があると考えられるため、こうした点にも留意していく。</p>	
<p>4 教科書、教材の作成状況(記述式：300字以内)</p>		
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<p>2006年度～2007年度</p> <p>2009年8月</p> <p>2010年11月, 2011年10月</p> <p>2010年12月, 2011年11月, 2013年11月, 2015年10月, 2016年10月</p> <p>2012年6月～(毎年6月)</p> <p>2013年7月～(毎年7月)</p> <p>2013年11-12月</p> <p>2016年1-2月</p> <p>2016年10月</p>	<p>シーズンスポーツ同好会顧問</p> <p>処分学生に対する指導(全16回)</p> <p>国際交流パーティー(深川国際交流協会)対象留学生スピーチ指導</p> <p>国際交流パーティー(深川国際交流協会)引率</p> <p>インターナショナルデー(深川国際交流協会)発表指導及び引率</p> <p>しゃんしゃん傘踊り実行委員会指導(学生委員会, 学生・地域国際交流委員会)</p> <p>経営経済科卒業制作実行委員会・委員</p> <p>海外研修(上海研修者)事前研修指導(対象者3名, 全3回)</p> <p>海外研修参加者対象事後研修指導</p>
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p>2015年9月, 2016年5月</p> <p>2017年9月-10月</p>	<p>市民公開中国語講座(全7回)(主催:本学地域国際交流委員会)</p> <p>地域プロジェクト「多文化共生力を身に付けるための異文化交流」における市民参加者への対応</p>

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	超分節的特徴は会話によるコミュニケーションを行う上で重要な役割を果たす要因である。音声による明確な意味分別には超分節的特徴を適切に制御することで、自然なコミュニケーションや意思伝達が可能となる。その一方、中国語と日本語の共通点として音節長により意味の分別があることなどから、音節長の制御は音声産出において重要であると考えられる。こうした日中双方の特徴を踏まえたうえで音節長に関する研究を通じ、従来から指摘され続けてきた中国人日本語学習者の日本語の発話における自然性の向上に資するべく、中国語の音節長の特徴と日本語の音節長の特徴を把握の上、中国人日本語学習者と日本人の発話データを対照させ総合的に検討する。			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	<p>研究課題「連続する CV 音節による適切な音節長とその定着- 特殊拍の習得基盤を兼ねる 3 音節語と 4 音節語-」</p> <p>正確で流暢な言語運用は、外国人日本語学習者の言語習得の目標とされている。だが、学習開始当初の中国語を母語とする学習者（以下、CNJ）には、五十音が覚えられないなどの訴えが散見される。こうした訴えには CNJ が産出する長すぎる CV 音節との関わりも指摘されており、その速やかな解消が求められている。</p> <p>そこで、本研究では、軽声音節の無意味語に置き換えた日本語の音声的特徴を思い出すことで、CNJ に連続する短い CV 音節による適切な音節長の再生が可能であるかという観点で、準実験研究として、CNJ 6名と東京語の日本語母語話者（以下、JN）3名を対象に、単語・文節・短文の発話実験で得られた 3 音節語と 4 音節語の検査語の音節長に基づき、その定着について検討した。</p> <p>その結果、CNJ（指導前）の音節長の分布は JN との間で有意差が確認され、更に、高さの特徴としてみなされがちながりが下がり傾向が、JN との音節長伸縮率の差に示された。一方、指導後は有意差が認められず、その異なる特徴が解消したと判断する。JN に近い CV 音節長が日本語における記憶の時間的範囲であるならば、連続する短い CV 音節による日本語の発話の基盤が既に定着していることが示唆される。（以上、出典：台湾應用日語研究第 32 期，台湾應用日語學會）</p>			
3 研究助成等 (主要 5 件程度)	<p>(1) 文部科学省科学研究費</p> <p>特になし</p> <p>(2) 学内</p> <p>2010 年度 拓殖大学人文科学研究所個人研究助成</p> <p>2016 年度 拓殖大学言語文化研究所個人研究助成</p> <p>(3) 学外</p> <p>特になし</p>			
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行又は発表雑誌等又は発表学会等の名称	要 約
(学術論文)				
連続する CV 音節による適切な音節長とその定着- 特殊拍の習得基盤を兼ねる 3 音節語と 4 音節語-	単	2023 年 12 月	台湾應用日語研究第 32 期，台湾應用日語學會，pp.109-146	本研究では、軽声音節の無意味語に置き換えた日本語の音声的特徴を思い出すことで、中国語を母語とする日本語学習者が発話する連続する短い CV 音節による適切な音節長の再生が可能であるかという観点で、3 音節語と 4 音節語の検査語の音節長に基づき、その定着について検討した。その結果、日本語の連続する短い CV 音節による発話の基盤の定着が確認された。更に、JN との CV 音節長の齟齬の解消や音節の長短の範疇化の促進、特殊拍の習得基盤を兼ねる効果も期待される。
日本語音声習得のための発話の基本単位における適切な長さの基盤形成- 中国人日本語学習者を対象とした母語に基づく CV 音節長の基準とその制御-	単	2023 年 7 月	日語偏誤与日語教学研究第八輯，浙江工商大学出版社，pp.165-183	本研究では、連続する短い CV 音節を日本語音声習得の基盤と仮定し、中国語の軽声音節に置き換えた無意味語による教示、並びにその内語反復と口慣らしの組み合わせの指導が、中国語を母語とする日本語学習者に対して CV 音節の語長効果の抑制と適切な長さの産出に寄与することを報告した。更に、日本語の連続する短い CV 音節が基準となり、対立する長音節との相対的な違いを把握するきっかけとなることが示唆された。
入学準備教育における学術的学習サイクルの適用-e-learning システムによる日本語学習の意識調査とその結果-	共	2011 年 10 月	拓殖大学人文科学研究所紀要第 26 号 pp.38-70	遠隔地の留学生を対象に学習内容を日本語聴解に限定して e-learning システムによる入学準備教育を実施し、その教育方法や学術的学習サイクルの適用の有効性を確認した。教材利用回数など実施状況のデータ、アンケートによる意識調査や年度別の日本語能力試験合格率をもとに検討した。

拓殖大学北海道短期大学における e-learning システムを活用した入学準備教育-入学準備教育の実施と今後の課題-	共	2011年3月	拓殖大学人文科学研究 所紀要第 25 号 pp.75-96	拓殖大学北海道短期大学では、2003 年度の AO 入試と入学準備教育を導入し、経営経済科では 3 ヶ月間、学習習慣の維持には、学習管理と双方向性が必要であると考え、e-learning システムを活用して実施した。実施結果より、現在大学が置かれている環境から、入学準備教育の必要性を確認した。
(学会等発表等)				
連続する短い CV 音節と日本語発話に対する学習者の変化-中国人日本語学習者のコメントから-	単	2023年11月4日	2023 年度多層言語環境研究国際シンポジウム	日本語の CV 音節を短くする指導に対する指導を受けた中国人日本語学習者に対して、一連の指導の印象や発音に伴う変化などについて自由記述によるコメントを求めた。その結果、学習開始当初の違和感は、中国語から日本語へと発話習慣の変化で生じた可能性がある一方で、一連の指導により促された無意味語による内語反復や口慣らしをきっかけに、違和感が徐々に解消して短い CV 音節の把握が促され、音節の長短の違いに対する理解が深まることも示唆された。
長短範疇化の前提となる自然な日本語発話を促す CV 音節長	単	2022年3月12日	多層言語環境研究国際シンポジウム	自然な日本語発話の習得促進のため、中国語を母語とする日本語学習者を対象に 3 音節語の発話実験を実施した結果、CNJ の個々の音節長には、当初、日本語の短音と長音の境である 200msec.前後かそれ以上で、JN の音節長との重ね合わせの傾向はなく、教示後は JN に近い程度で重ね合わせの傾向が示された。つまり、中国語に置き換えた日本語の短音節の基準は、日本語の適切な CV 音節長の産出に不可欠で、長音節との音声的な違いを把握する前提となると考えられる。
日本語らしい CV 音節長習得を促進する中国語音節とその要因 - 日・中両語の 4 音節語の音節長パターンの比較から -	単	2020年12月12日	2020 年度台湾日本語文学会国際学術シンポジウム	学習者の日本語について、指導前後の 4 音節語の発話データを踏まえ音節長の産出要因や学習効果等により検討した。指導前は知覚傾向との類似性が確認された。日本語の音節の産出に母語の声調の産出に必要な音節長や中国語の 2 音節語の音節長パターンの援用により日本語の CV 音節の連続発話を困難にする可能性を指摘した。
中国人日本語学習者の日本語発話における音節長の注意制御と学習効果 - 日本語らしい CV 音節長の産出のための自己教育力を促す教授方略の適用 -	単	2020年5月9日	The 26 th Princeton Japanese Pedagogy Forum PROCEEDINGS May 9-10, 2020, pp.24-35 Department of East Asian Studies Princeton University	日本語に近い母語の音節への注意制御が日本語の音節長の産出のイメージを促進し、母語から日本語の発話習慣に切り替えられたことが確認された。一連の指導プロセスは認知的側面によれば音韻情報が学習者の頭に蓄積され、学習者の記憶から自動的かつ効率的に取り出せるようにする自己教育力を促す教授方略として有効である可能性が確認された。
中国語軽声音節の特徴の教示による日本語 CV 音節長の改善と効果 - 中国語と日本語の調音的特徴と音節長の産出要因 -	単	2019年12月14日	2019 年度台湾日本語文学会国際学術シンポジウム	疑問文と平叙文で平らなアクセント（低高）の 2 音節語/mama/を対象に学習者 6 名の中国語と日本語、日本語話者 3 名の日本語の音節長の特徴を整理した。学習者の指導前の発話には母語の調音基底との関連が確認された。指導後は適切な音節長に改善され、その要因に日本語の調音基底への移行が挙げられる。
中国人初級学習者の発話の日本語らしさに関する日本人の評価 - CV 音節長のコントロールに基づく発話データから -	単	2019年8月7日	CAJLE カナダ日本語教育振興会 2019 年年次大会 Annual Conference 2019	日本人 81 名を対象に聴取実験を行い、日本語らしいとする音声を強制選択法により主観的印象により評価させた。その結果、母語の音声的特徴に基づく音節長さの教示により、学習者の発話は CV 音節の物理的な長さの改善に加え、聞き手の日本人にも日本語らしいと評価された。
中国語軽声音節の特徴の教示による日本語 CV 音節長の改善と効果 - 中国人初級日本語学習者の日本語センテンス発話における 2 音節無意味語を例に -	単	2019年5月11日	The 25 th Princeton Japanese Pedagogy Forum Saturday, May 11, 2019 - Sunday, May 12, 2019 Princeton University	発話実験により日中両語の検査語の音節長には 2.28 倍の差がみられた。学習者の日本語（指導前）は日本人より 47%長く日本語でも中国語でもない近似形の音節長であり、これが母語の発話習慣の反映による不自然さの一因であることを指摘した。

中国語軽声音節の特徴の教示による日本語CV音節の改善と効果 - 中国人初級日本語学習者の疑問文と平叙文の発話データを基に -	単	2018年12月8日	第十二回国際日本語教育・日本研究シンポジウム	学習者6名の中国語と日本語、日本人3名の日本語の文中の検定語/ma/等の平均音節長を測定した。学習者の指導前の日本語は文頭と同様、文中も日本人より100msec.以上長かった。指導後は疑問文で6msec., 平叙文で8msec.日本語話者より長い程度まで改善した。	
中国人日本語学習者の中国語と日本語の音節持続時間の特徴 - 母語の特徴を活用した日本語CV音節の長さの改善策とその効果 -	単	2018年8月4日	2018年日本語教育国際研究大会	自然な日本語発話の早期習得をめざす観点から、学習者の母語の音節の長さをもとに日本語の基本単位CV音節の長さの基準を検討した。母語の中国語の音節の長さを基準にした教示で中国人日本語学習者の長すぎる日本語CV音節に改善効果が確認された点を、指導前と指導後の発話データを基に提示した。	
中国語話者の発話における中国語音節と日本語モーラの持続時間の特徴 - 学習者の母語の音声的特徴に基づく日本語発話リズム改善に関する一考察 -	単	2017年10月7日	第14回マレーシア日本語教育国際研究発表会	日本語の/CV/構造の短音の長さについて、日本語と中国語の発話実験の結果に基づき、日本語発話のリズム改善の糸口となりうる方向性を提示した。中国語の軽声音節「个」の持続時間に注目し、日本語の/CV/構造の短音に中国語の軽声音節の特徴を適応させることにより、学習効果を高める可能性を指摘した。	
(その他)					
北海道短期大学における日本語教育	単	2013年2月	日本語教育の歩みー拓殖大学日本語教育五十周年記念誌ーpp.118-125	拓殖大学北海道短期大学の留学生の受け入れの経緯と教育活動・客員講師の招聘・課外活動の取り組みなどをまとめた上で、今後の課題について論じた。	
研究業績 (過去3カ年分)				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	2	2	0	有	有
学 内 運 営 業 績					
1 役職, 各種委員会等 (主要10件程度)	2004年4月～2006年3月	入試広報委員会・委員			
	2007年4月～2008年3月				
	2005年4月～2007年3月	教務委員会・委員			
	2017年4月～2019年3月				
	2006年4月～2016年3月	学生委員会・委員			
	2010年4月～2016年3月	地域国際交流委員会・委員			
	2016年4月～2017年3月 2019年4月～現在に至る	学生・地域国際交流委員会・委員			
2016年4月～2021年3月 2021年4月～2023年3月	自己点検・評価委員会・作業部会・委員 広報委員会・委員				
学 外 活 動 業 績					
1 本学以外の機関 (公的機関・民間団体等) を通しての活動 (主要10件程度)	2005年7月	総合演習特別講義 (市立名寄短期大学児童専攻)			
	2006年10月	総合的な学習時間の指導 (市立多度志中学校)			
	2007年5月, 2011年11月	警察通訳 (北海道旭川方面深川警察署)			
	2008年3月	総合的な学習における特別講義 (深川東高等学校)			
	2009年9月	台湾八八水害とその義捐活動に関する報告 (深川東高等学校)			
	2010年9月	広報関係文書翻訳 (深川市環境課)			
	2011年2月	高校生・保護者対象教育講演 (公文旭川事務局・深川東教室)			
	2011年12月	小中高校生対象教育講演 (公文旭川事務局・北光教室)			
	2014年3月～2014年12月	子どもの読書活動推進計画策定委員会・委員長 (深川市生涯学習課)			
	2015年1月	小中高生保護者対象教育講演 (公文旭川事務局・サニータウン教室)			
	2015年7月	台湾華語スピーチコンテスト (台北駐日経済文化代表処札幌分処)			
2020年2月	深川市民公開講座「言語について考える」講演				
2 学会・学術団体等の活動 (主要10件程度)	2000年4月～現在に至る	日本音声学会・正会員			
	2002年6月～現在に至る	中華民国斐陶斐荣誉学会・荣誉会員			
	2005年3月～現在に至る	日本語教育学会・正会員			
	2009年10月～現在に至る	中検フォーラム・正会員			
	2022年10月～現在に至る	日語偏誤与日語教学学会・正会員			
	2022年10月～現在に至る	台湾日語教育学会・正会員			
	2023年1月～現在に至る	台湾応用日語学会・正会員			